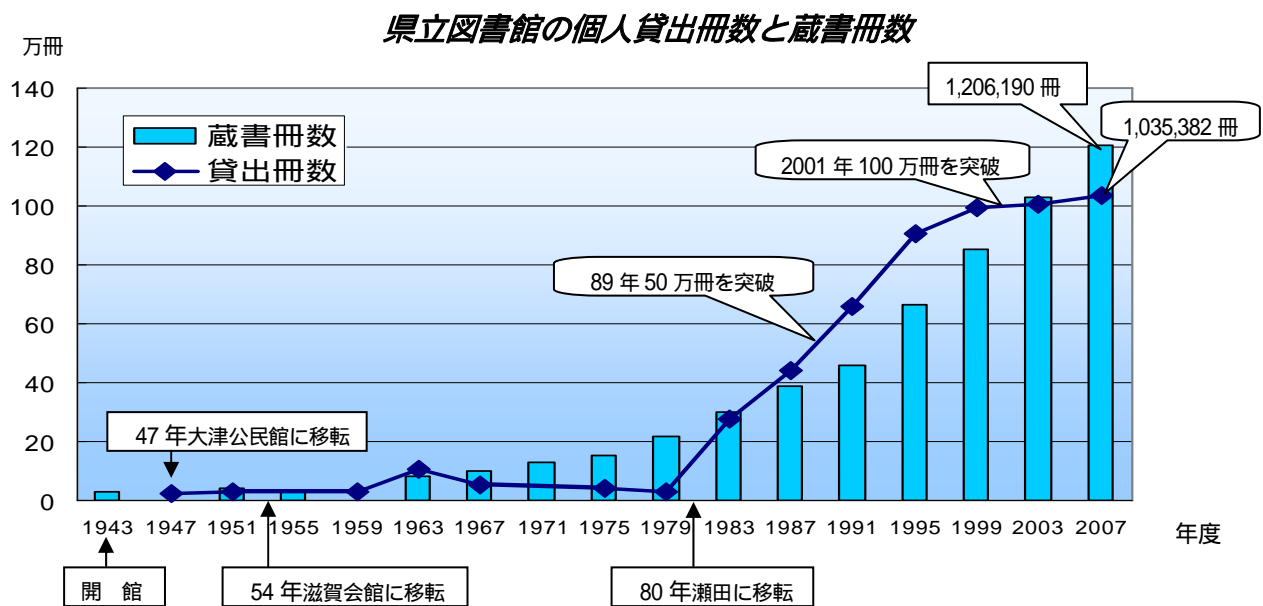


Web版 図書館しが

平成 20 年 6 月 1 日発行 編集・発行：滋賀県立図書館

平成 19 年度 個人貸出冊数 103 万冊 過去最高に 蔵書冊数 120 万冊を突破



参考：『滋賀県立図書館創立50周年記念誌』、『滋賀県立図書館事業概要 平成19年度』

INDEX

- ・平成19年度 個人貸出冊数103万冊 過去最高に…………… 1～3面
- ・ひとくち源氏物語 1.石山寺…………… 3面
- ・郷土資料紹介…………… 4面

図書館の催し

土曜サロン

6月21日(土) 午後4時15分～ 一階談話室

「裁判員制度ってなに？」

広報映画「審理」上映など

7月26日(土) 午後5時～ 一階ロビー

ピアノ演奏 by 中井知子

石山寺関連資料展

6月4日(水)～29日(日) 参考資料室

紫式部と源氏物語関連資料展

7月24日(木)～8月31日(日) 参考資料室

おはなし会

6月20日(金)・7月18日(金)

午前11時と午後3時の2回 一階談話室

夏休み文化ゾーン探検隊今年も開催予定

[県立図書館の貸出状況]

昨年度（平成 19 年度）県立図書館の個人貸出冊数が 103 万冊となりました。これは一昨年度の 101 万冊を上回る冊数で、県立図書館が昭和 18 年に開館して以来最高となりました。県立図書館は今年で 65 年を迎えますが、開館当時の貸出記録が 2 万冊余りでしたので、この数値を見るだけでも大きな進展を遂げたことがわかります。（表紙グラフ参照）

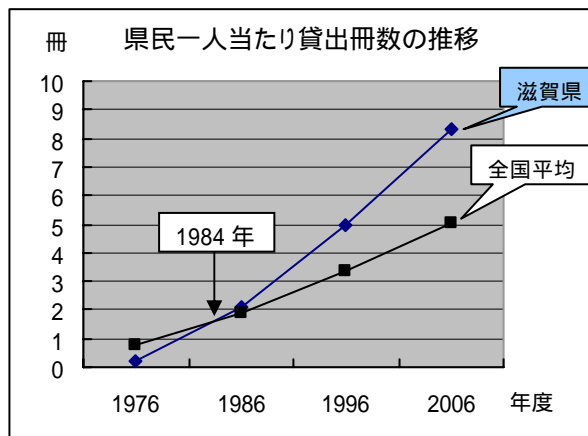
昭和 55 年に瀬田に移転してから、貸出冊数は急速な伸びを見せ、昭和 56 年度(1981 年度) 12 万 5 千冊、平成元年度（1989 年度）には 50 万冊を突破しました。初めて 100 万冊を超えたのが平成 13 年度（2001 年度）ここ数年間は 100 万冊前後で推移しています。



県立図書館の風景（昭和 22 年頃）

[滋賀県全体の貸出状況]

ここで、県内の市町立図書館全体の貸出状況を見ると平成 18 年度（2006 年度）に合計 1,138 万冊の貸出があり、住民一人当たりの貸出冊数が 8.34 冊で 5 年連続全国 1 位となりました。全国平均の 5.01 冊と比較しても、滋賀県民がいかに本をよく読むかが分かります。



県民一人当たりの貸出冊数が全国平均を超えたのが 1984 年で、県内の市町立図書館がようやく 9 館（彦根，水口，守山，野洲，今津，大津，長浜，近江八幡，草津）になった頃です。

[県立図書館の蔵書と県全体の蔵書]

一方、蔵書冊数の伸びを見ると、昨年度県立図書館の蔵書が 120 万冊を突破しました。開館当初の冊数が 2 万 7 千冊、昭和 55 年移転した当時が 23 万冊でした。（表紙グラフ参照）

また県内全体で見ると県立図書館を含め県内の図書館が持っているすべての図書は 850 万冊（平成 19 年度末）となっています。

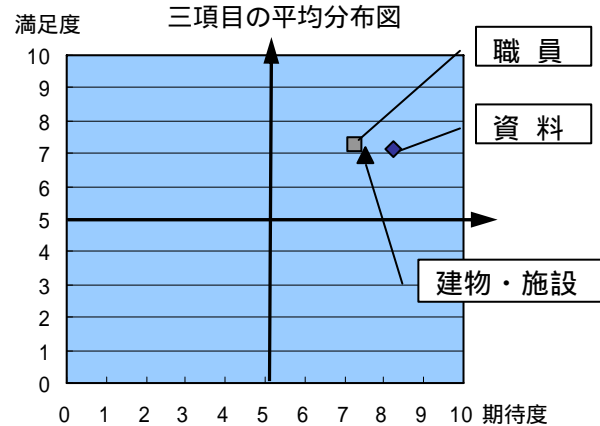
図書館を取り巻く状況は年々厳しさを増し、県内のほとんどの図書館で予算が削減されました。県立図書館も例外ではなく、今年度予算が大きく減少しました。しかし、県立図書館サービスの低下を最小限にすることを第一に考え、県内市町立図書館との協力連携や県立図書館独自のサービス改善により従来と変わらない方針でサービスに取り組みたいと思っています。

県立図書館の使命は、県内市町立図書館のバックアップです。市町立図書館が充実することで、県民の皆さまへの資料提供が十全なものになると考えています。そのために今後も市町立図書館と協力して活動して行きたいと思っています。

[利用者アンケート]

サービス改善の方法として、当館では年に一度利用者アンケートを実施しています。昨年度は2月2日(土)、3日(日)に実施したところ、両日で1,500人以上の方々に回答をいただきました。その中で、資料、職員、建物・施設の三点について期待度と満足度の調査を行いました。その結果利用者の方々の資料に対する期待度が最も高く、また満足度との差が最も大きいのも資料でした。各項目の平均値は以下のとおりです。

	期待度	満足度	差
資料	8.27	7.11	1.16
職員	7.39	7.27	0.12
建物・施設	7.69	6.96	0.73



利用者の方々が資料に対していかに期待をして来館しておられるかがこの数値でわかります。図書館にとって資料が一番大切であることは皆さまが期待されているとおりです。私たちは図書館をとりまく状況がいかに変わっても、資料を提供することを通じて皆さまの暮らしに役立つ図書館でありたいと考えています。

これを直接支えるのが職員であり、長年の経験や知識が資料提供につながります。一見、図書館にないと思われる資料も、別の全集や叢書の中に収録されているのを探し出したり、生活で困っているような身近な問題を雑誌記事や法律・判例のデータベースを使って解決の糸口をつかんだりということはよくあります。資料と利用者の方々を結ぶのがレファレンスの仕事です。お探しの資料が見つからなくても、どうぞあきらめずに私たち司書にご相談ください。

[皆さまからご意見を頂戴して]

また、アンケートの自由記入ではたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。例えば、「特に土日は職員が忙しい感じで、資料の相談ができる雰囲気でない。」という意見については、新年度から土日祝日の職員の数を増やすことにしました。閲覧室の職員はすべて司書ですので、どうぞ気軽に声をお掛けください。今後も利用しやすい図書館を目指して改善を進めてまいります。

今月の BOOK まーく

オンラインデータベースに「J Dream」を追加しました



図書館では皆様の調べものに役立てるため、オンラインデータベースを順次導入してきました。オンラインデータベースには、本としての「辞書」では出来ないさまざまな検索が可能であることに加え、CD-ROM などを使ったデータベースより内容の更新が早いので、新鮮な情報をいち早く提供できるという利点があります。

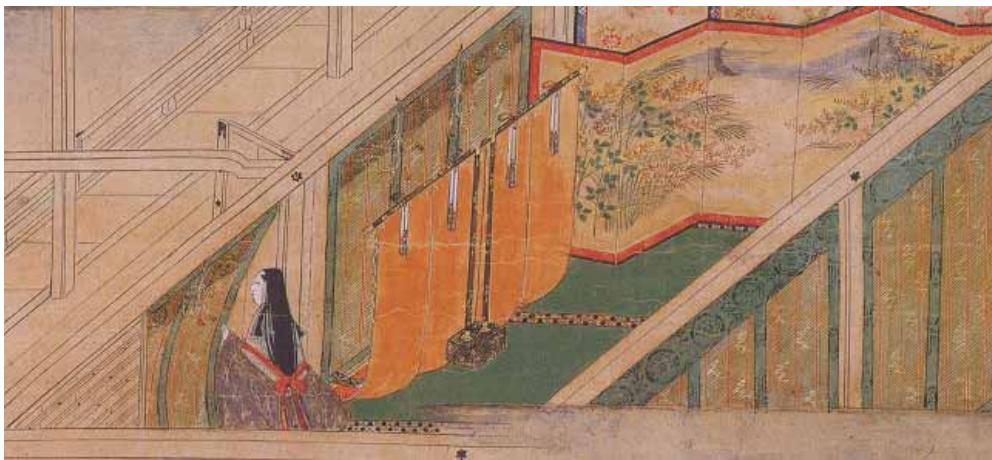
今年度から導入しました「J Dream」は、科学技術振興機構が提供している科学技術全般の文献情報データベースです。中心となるのは世界 50 数カ国の学術雑誌約 2 万 1 千誌、公共資料・会議録約 7 万 8 千冊からの 2 千万件を超える文献情報で、これらは毎月 4 回更新されます。

検索結果には、タイトルや収録誌といった主な情報のほか、抄録も掲載されています。基本的に文献全文は収録されていませんが、当館にその文献があれば複写ができますし、国立国会図書館等を通じてコピーを取り寄せることも可能になります。このほかにも、医薬品の有効性・安全性に関する文献情報などもあります。

ひとくち源氏物語 1. 石山寺

平安時代には多くの庶民や貴族による「石山詣」が盛んで、清少納言の『枕草子』「寺は・・・」の段にも石山寺の名があがっています。紫式部はこの石山寺に籠って『源氏物語』の構想を練ったと伝えられ、「石山寺縁起」巻四には御簾に手を添え景色を眺める紫式部の姿があります(写真)。紫式部の愛読書、『蜻蛉日記』に綴られていた石山寺からの眺め、それがこうして彼女の目の前に広がっているのです。

当時の人々の石山寺に対する信仰は、源氏物語の中にもあらわれています。「関入る日しも この殿 石山に御願はたしに詣でたまひけり」(源氏物語第十六帖関屋)。物語のなかで、光源氏が、須磨からやっと都へ帰ることが出来た御願ほどきの「石山詣」を行っただりです。こののち物語は光源氏が逢坂の関で空蝉と遭遇する名場面へと続きます。大津には、このような源氏物語ゆかりの場所が多くあります。



「石山寺縁起」より(『紫式部と石山寺』石山寺発行)

FLASH ふらッシュ

復活！ライブラリーコンサート

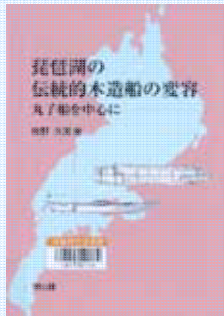
平成11年以降中断していたライブラリーコンサートが、メサイア2008合唱団の方々のご協力を得て復活しました。館内に響き渡る迫力ある歌声に引き寄せられ、約150人の皆さまが楽しんでくださいました。

今後も月に一回程度、利用者アンケートでご要望の多かったコンサートを中心に講演会などの開催を予定していますので、ぜひご参加ください。



4月26日(土)夕方 一階ロビーにて

湖 国 の 本 棚



『琵琶湖の伝統的
木造船の変容 丸
子船を中心に』
牧野久実著
雄山閣 2008年
6,400円(+税)

古代から半世紀前まで、琵琶湖は日本の東西南北が結ばれるほどの重要な「交通の大動脈」(本書より)でした。その大動脈を支えたのが数多くの木造船です。しかし交通手段の発達により次第に木造船は姿を消してしまいました。

著者(元琵琶湖博物館学芸員)は、木造船の中でも丸子船を中心に、その消長を追いながら、琵琶湖水域の人と自然環境のあり方や変遷を明らかにしています。最後の丸子船大工の証言や地域住民の声などが掲載されており、本書は学術書でありながらたいへん読みやすく書かれています。

今月のデジタルアルバム帖

6・7月「琵琶湖/竹生島の沈影」

琵琶湖に浮かぶ竹生島は、古くから神の住む島として信仰を集めてきました。奈良時代の初期、行基の創建と伝えられ、日本三弁財天のひとつとして著名な宝厳寺があります。また、浅井姫命を祭神とする都久夫須麻神社が有名です。今回は、竹生島と多景島や沖の白石、琵琶湖周遊、琵琶湖の恵みのいくつかをご紹介します。



郷 土 資 料 紹 介

平成20年3月～4月購入・寄贈分

多賀大社平成の大造営記念誌
多賀大社編 多賀大社社務所 2008年
称名寺の沿革 浄土真宗東本願寺派 津布良山
津布良孝夫著 津布良山称名寺 2007年
京都・近江戦国時代をゆく
津田三郎著 淡交社 2008年
和田惟政と甲賀武士
和田晋次著 和田晋次刊 2008年
近世の城と城下町 膳所・彦根・江戸・金沢
滋賀県文化財保護協会編刊 2008年
近江路花歩き 花を楽しむ日帰り健康ハイク
近江路花歩きの会編 サンライズ出版 2008年
滋賀の福祉を考える 歴史と実践のなかから
「滋賀の福祉を考える」編集委員会編
滋賀県 2007年
滋賀県の自然神信仰 滋賀県自然神信仰調査報告
書(平成14年度～平成19年度)
滋賀県教育委員会文化財保護課編
滋賀県教育委員会 2007年
生きもの秘境のたび 地球上いたるところにロ
マンあり 高橋春成著 ナカニシヤ出版 2008年

臨床検査とやまいだれ ミクロの世界
堀井昭著 堀井昭刊 2008年
ヴォーリス建築の100年 恵みの居場所をつくる
William Merrell Vories[作]
山形政昭監修 創元社 2008年
信長とまぼろしの安土城
国松俊英著 文溪堂 2008年
国宝彦根屏風
彦根城博物館, 東京文化財研究所企画情報部編
彦根城博物館 2008年
「わたしゃ籠の鳥やでエ～」母87歳に贈った絵
手紙綴り 小島喜美子著 NHK学園 2008年
源氏物語の近江を歩く
畑裕子著 サンライズ出版 2008年
電車と青春+初恋 21文字のメッセージ
大津の京阪電車を愛する会編刊 2008年
隠岐しぐれ 高橋千美遺句集
高橋千美著 文學の森 2008年
思いのままに その2 2007年秋
北島和代著 北島和代刊 2007年